

レポート作成における注意事項

1. レポートに記述しなければならない事項

提出レポートには、以下の項目：

- 目的
- 実験装置・環境
- 方法
- 演習結果
- 考察
- 参考文献

は必ず記述されていなくてはならない。一つの項目でも欠けていた場合、再提出になるので注意せよ。なお、これらの項目はセクションに分けて記述することが望ましい。

2. 目的に関して

「目的」では、その演習は何のために行うのかを明記する。テキスト⁽¹⁾やインターネット上の文章を丸写しするではなく、自分の言葉で記述せよ。

3. 実験装置・環境に関して

「実験装置・環境」では、方法や結果の内容を理解するために必要最低限の情報（例えば、計算機環境や使用ソフトウェア名とバージョン）に関して述べなければならない。必要に応じて、使用したコマンドやそのオプション、編集するファイルの記述法等も全て「実験装置・環境」で説明し、「演習方法」や「演習結果」には記載しない。また、たとえ以前に実施した演習テーマであったとしても、本演習を実施するために必要な情報は記述しなくてはならない。

4. 方法に関して

テキスト⁽¹⁾に記述されている演習方法をまとめただけでは、レポートの内容として不十分である。配付した資料やテキストを良く理解し、レポートだけで実験・演習が再現できるようにまとめなければならない。また、コマンドや設定値を並べただけでは、実験手順は全くわからない。

以下の3.1及び3.2節では、例年、方法の書き方で気になった点をまとめている。当然のことながら、他の項目にも関係することなので、「演習方法」だけでなく関係箇所にも全て反映させよ。

4.1 箇条書き

各節で、ほとんどのレポートが箇条書きによる説明のみで済ませている。しかしながら、各節が箇条書きだけの構成になることはない。このようなレポートを作成しているならば、必ず修正が必要である。また、多くの人が箇条書きと節を混同している。箇条書き

なのか、節なのかを明確に区別せよ。さらに、項目を文章にし、その文章がある程度の長さになった場合、それを段落にすべきである。

一般に、箇条書き項目が多くなりすぎると項目同士の関係がぼやけ、読みやすさが損なわれる。このような状況を避けるには、項目を分類して箇条書きをいくつかに分割する、あるいは、表としてまとめる等の方法がある。安易に箇条書きを使うのではなく、文章で説明するように心掛けよ。

4.2 図・表

レポートで図や表を用いる場合には、必ずキャプションをつけよ。図なのか、表なのか、文章なのか判断できない書き方をしているレポートが目立つ。テキストの図や表を参考にせよ。

5. 演習結果に関して

「演習結果」では、出力結果や得られたデータが示されなければ、演習が成功したのか否かを判断できない。単に、「確認できた」や「取得できた」では結果に書く内容としては不十分である。必ず、その根拠となる情報を示さなければならない。例えば、ホスト間の通信が成功しているのかを確認する場合、図1に示すような出力結果が示されなければならない。さらに、出力結果を示しただけでは意味がないので、必ず示した結果に関して説明せよ。

得られたデータまたは結果をレポートにまとめる場合、全ての情報を必ずしも記述する必要はないが、「演習結果」および「考察」に必要十分な情報が記載されていなければならない。各自実験の際に得られた情報を取捨選択し、見やすいレポートを作成せよ。数ページをまたぐような図や表は絶対に作らないように注意せよ。

```
Escape character is '^]'.  
  
FreeBSD/i386 (j1fs) (tty0)  
  
login: root  
Password:  
Last login: Mon Apr 13 15:06:39 from GroupXX  
[root@j1fs ^]#
```

図1 ログイン結果

6. 結論に関して

「考察」とは、結果に至った要因や演習の失敗で学んだ事実等を客観的に考えをまとめることです。個人的な感想を述べるところではない。すなわち、考察では「～と感じる」や「～と思う」という表現を使うことはない。

7. 最後に

最後に、レポート全体に関する例年の注意事項を以下に列挙する。

- 1) 全ての演習結果をレポートに必ず記述せよ。結果が未記述のレポートが目立つ。こういったレポートは評価不能である。
- 2) フォーマット、誤字脱字のミスが多すぎる。提出前には必ず見直しをすることを心掛けよ。
- 3) 適当なインデントは絶対にしない。この資料を参考に各自レポートを見直せ。
- 4) レポートには必ずページ番号を記述せよ。
- 5) 本文中の文章は体言止めにしない。
- 6) web, 本, テキスト, 他者のレポートの丸写しは絶対にしない。このような行為は重大な著作権の侵害であり, 犯罪です。そのような箇所は採点対象とせず, 未記述として扱います。また, 他者のレポートの場合, コピー元, コピー先共に同様に扱う。
- 7) レポート提出する際, 本文の文章にも気をつけよ。謙譲語, 尊敬語, 丁寧語の使い方がおかしいレポートが散見される。使い方に不安がある場合, 国語辞典や広辞苑⁽²⁾等で調べてから使用せよ。

参考文献

- (1) 情報・エレクトロニクス学科(情報・知能コース)編, 「情報科学演習資料」,
<https://ecsylms1.kj.yamagata-u.ac.jp/webclass/course.php/2452513/manage/>,
2024.
- (2) 新村出著, 広辞苑第6版, 岩波書店, 2008.